

令和3年8月16日 作成 大谷 将士
令和3年8月17日 修正 宮坂 泰弘

2021年8月11日ビーム物理領域インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会拡大幹事会) 議事録

日時：2021年8月11日(水) 15:00 - 16:00

会場：zoom

出席者(順不同・敬称略)：23名

全 炳俊, 栗木 雅夫, 平 義隆, 内藤 大地, 近藤 康太郎, 神門 正城,
佐藤 政則, 山本 尚人, 宮本 修治, 羽島 良一, 郭 磊, 金田 健一,
原田 寛之, 佐古 貴行, 坂上 和之, 守屋 克洋, 菅 晃一, 大塚 崇光, 不破 康裕,
北村 遼, 鷺尾 方一, 大谷 将士, 宮坂 泰弘,

司会：宮坂 泰弘

書記：大谷 将士, 松門 宏治

配布資料

2021F-1.pdf：前回議事録

20210811_BeamWakate.pdf：ビーム物理研究会・若手の会 活動報告

Web サーバセキュリティインシデント_20210811.pdf：サーバー管理について

2021 拡大幹事会資料.pdf：議事内容

議事内容

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - 2-1. 日本物理学会ビーム物理領域
 - 2-2. ビーム物理研究会関連
 - 2-3. 日本加速器学会関連
3. その他
 - 3-1. 次回の総会・拡大幹事会

1. 前回議事録確認 (資料 2021F-1)

2021年3月15日に行われたビーム物理研究会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録について内容確認が行われた。事前(2021年8月6日)にメールにて配布されており、時間的な制約から内容の読み合わせは省略した。意見・コメントは無く議事録として承認された。

2. 報告・審議事項

2-1. 日本物理学会ビーム物理領域

[大会関連]

前回の年次大会について

オンライン開催された2021年3月12日～15日の日本物理学会第76回年次大会での講演数と内訳、一般講演数の推移、他領域との比較、所属機関別内訳、他領域との合同セッション発表件数の内訳、招待・企画・チュートリアル・シンポジウム講演、若手奨励賞受賞記念講演に関して報告があった。詳細については既に『日本物理学会第76回年次大会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)議事録』(2021F-1)で既報である。一般講演件申込時の件数は最下位から2番目であり、講演数によって若手奨励賞の枠が増減するために積極的な応募の検討が呼びかけられた。論文提出率は物性領域と比較して10パーセントほど低く引き続き提出率向上が課題であり、論文集に掲載するとDOIが付与され査読無の論文として実績になることが紹介された。

合同セッション・招待・企画・チュートリアル講演およびシンポジウムについて

第76回年次大会における他領域との合同セッションにおける講演数は17件であった。その他に”大強度加速器・測定器の技術(主)”で発表された3件は合同セッションで取り扱われる予定であったが、領域委員で引き続きが不十分であったために手続きに不備があり、単独セッションで取り扱われた。今後はこのようなことが無いように引継ぎ項目に記載する。また、若手奨励賞受賞記念企画講演以外に、企画講演が1件、招待講演が1件開催された。第75回年次大会では主催シンポジウムが0件であったが、第76回年次大会では主催シンポジウムが2件(共催は3件)開催された。引き続き積極的なシンポジウムの提案が周知された。

若手奨励賞について

第76回年次大会では第15回の受賞者である久保毅幸氏と全炳俊氏の若手奨励賞受賞記念講演に加え、第75回年次大会で記念講演が実施できなかった北村遼氏の講演が企画講演として行われた。

今年の日本物理学会若手奨励賞(ビーム物理領域)の募集締切は7月31日で、2件の応募があったことが報告された。応募件数が少ない状況が続いており、積極的な応募を

お願いしたいとコメントがあった。

日本物理学会 学生優秀発表賞の結果について

第76回年次大会では24名のエントリーがあり、5名が受賞した。ビーム物理領域 HP においてこれまでの受賞者リストを掲載している。

第77回年次大会(2022年春)までのスケジュール

第77回年次大会までのスケジュールが確認された。2021年秋季大会は「素核宇」は2021年9月14日から17日まで、「物性」が2021年9月20日から23日までどちらもオンラインで開催される。第77回年次大会は2021年3月15日から18日まで岡山大学・津島キャンパスで開催される。シンポジウム、招待・企画講演などの申込締切（Web受付）は11月初旬、一般講演の申込期間は11月中旬から12月初旬と予想される。申込に向けた準備を進めてほしいとの依頼があった。

学会発表英語化の検討について

前回のインフォーマルミーティングで議論が行われた学会発表英語化については、前回のインフォーマルミーティングでの結論に近い形で、英語化を推奨していた理事会提案はほぼ全面的に差し戻しになったことが報告された。

キーワードの追加について

前回のインフォーマルミーティングで議論が行われたレーザー関係のキーワード追加について報告があった。2022年春季大会から「レーザー生成量子ビーム科学」というキーワードが追加される予定である。キーワードの追加作業は9月下旬に領域運営委員が行う。

[領域運営関連]

執行部と事務局の確認

ビーム物理研究会及び日本物理学会ビーム物理領域の現執行部の確認が行われた。2021年4月より現執行部の体制は以下の通り。任期は2021年4月から2023年3月まで。

<ビーム物理研究会>

会長：栗木 雅夫（廣大）

副会長：鷺尾 方一（早大），神門 正城（QST）

<日本物理学会ビーム物理領域>

代表：栗木 雅夫（廣大）

副代表：神門 正城（QST）

<事務局>

広島大学大学院先進理工系科学研究科加速器物理学研究室
東広島市鏡山1丁目3番1号

次期領域運営委員について

現領域運営委員の大谷 将士氏 (KEK) の後任として、高輝度光科学研究センターの岩井 瑛人氏が推薦され、承認された。任期は2022年4月から2023年3月までの1年間となる。

2-2. ビーム物理研究会関連

[研究会会合関連]

ビーム物理研究会・若手の会 2020 について

ビーム物理研究会・若手の会 2020 に関して概要の報告があった。ビーム物理研究会及びビーム物理研究会・若手の会の主催により 2020 年 12 月 8 日から 10 日 (研究会: 8-9 日、若手の会: 9-10 日) の会期で、オンライン開催 (Zoom) された。研究会の参加登録者 93 名、13 件の発表があった。

ビーム物理研究会・若手の会 2021 について

現地開催が可能であれば理化学研究所仁科加速器センターで開催される予定であることが報告された。会期は未定である。

[研究会運営関連]

若手の会の活動報告 (坂上 和之氏 東大)

まず、ビーム物理研究会・若手の会の活動に関して、坂上 和之氏 (東大) より資料を用いた説明があった。

まず、時間の都合で前回のインフォーマルミーティング以降の活動に絞って活動報告が行われた。

2020 年 12 月 ビーム物理研究会、若手の会をオンライン開催

2021 年 5 月 第 3 回企画研究会「ビーム物理分野周辺における次世代教育・アウトリーチ」をオンライン開催

例年に比べると活動報告項目が少し少なめだが、コロナ禍でオンライン開催しかできないということもあり、今後も持続可能な範囲で継続していきたい旨が報告された。

次に、会員の状況について報告があった。2021 年 8 月時点での会員数は 134 名であり、2020 年 7 月 (123 名) から増加している。

2020年4月より第2期幹事会が発足し新しい体制で運営している。現体制は2022年3月までの予定である。幹事会はビーム物理領域との連携を深めることを目的とし、領域代表及び副代表に顧問就任を依頼している。また、領域運営委員もオブザーバーとして参加している。

若手の会のホームページにおける研究会や公募採用の案内を掲載、メーリングリストにおいても配信を行っていることが報告された。2020-2021年度は59件の公募案内が行なわれた。

若手の会が開催する企画研究会は、若手の会会員であれば誰でも企画提案することができる。オンライン開催も可能であるため、積極的な提案が呼びかけられた。第3回企画研究会について、KEKの大谷氏から提案された「ビーム物理周辺分野における次世代教育・アウトリーチ」が2021年5月19日にオンラインで開催されたことが報告された。ビーム物理に関連する教育活動やアウトリーチに関する講演が5件行われた後、議論を行い、通常の学会ではあまり聞けない話で大変興味深い内容であったことが報告された。

日本学術会議・若手科学者ネットワークについては、現在活動が停滞している旨が報告された。

ビーム物理研究会・若手の会2020での若手発表賞についての説明があった。若手発表賞は、ビーム物理分野の研究に取り組む若手研究者や学生の研究意欲を高め、研究者・社会人としての自立と発展を支援することを目的として2015年より授与を行っている。原則年齢は問わないが学生もしくは任期付き研究員を対象としている。口頭発表のうち、研究成果、主体性及び発表のまとまりを評価項目とし、数名の審査員による10段階の採点によって受賞者を決定する。本研究会では、4名に賞状と副賞が授与された。

ビーム物理研究会 Web サーバの現状・セキュリティインシデントについて

佐藤 政則氏 (KEK) より資料を用いた説明があった。Web サーバは加速器研究施設に設置されており、ビーム物理研究会に加えて、入射器・IBIC・IPACのWebサーバとして運用している。

2021年1月5日に外部監視機関JSOCから「Webサーバーにおいてシステムのディレクトリ階層情報が公開されているページが存在する」と指摘を受け、KEK CSIRTにより機構外部からのWEBアクセスが遮断された。過去1年間のアクセスログを解析した結果、クロスサイトスクリプティング攻撃が疑われるものが44件(内19件はビーム物理研究会・若手の会のWikiページ)あったことが発覚したが、全て攻撃に失敗していることが分かった。1月13日にCRISTより調査完了の通達があり、インシデント報告書を提出・受理の後、2月2日正午頃、WEBアクセスが再開された。

KEKではDMZ クラスタ接続(外部からのアクセスが可能なもの)の計算機はセキュリティ診断を行っているが、今回の件は検知できず、これ以上の調査は困難である。

2017年6月にも同様の事象があり、3週間通信が遮断された。複数のWebコンテンツを1台の物理マシンで運用している場合、いずれかのコンテンツに脆弱性が検出された場合、全てのコンテンツが閲覧不能となる点にご留意いただきたいということが報告された。

2-3. 日本加速器学会関連

第19回日本加速器学会年会のお知らせ

会期：2022年8月7日（日）-8月10日（水）

共催：九州大学

会場：北九州国際会議場/西日本総合展示場

国際加速器スクール(ISBA21)について

栗木 雅夫領域代表より、今年度実施予定の第4回ビーム力学と加速器技術についての国際スクール (ISBA21) についての概要説明が行われた。12月頃までに会期・実施体制(現地 or オンライン)を決定しアナウンスする予定であることが報告された。

3. その他

3-1. 次回の総会・拡大幹事会

次回の総会は2022年3月15日（火）-18日（金）に開催される日本物理学会第77回年次大会（岡山大学・津島キャンパス）の会期中に行う。また、拡大幹事会は2022年8月7日（日）-10日（水）に開催される第19回日本加速器学会年会（福岡県北九州市）の会期中に行うことが確認された。

日本物理学会第77回年次大会でのシンポジウム提案に関して

第75回年次大会で主催シンポジウムが0件だったことを受けて、前回のインフォーマルミーティングからこのタイミングでシンポジウムのアイデア出しをやろうということになった。以下のアイデアについて議論された

- ・次の加速器学会特集号のテーマ(ビーム標的に関するもの)
- ・実験室規模のレーザープラズマ加速
- ・JST 未来社会で進めているレーザー加速関係
- ・SACLAに関する講演 (SACLA・SPring-8 アップグレード, ビームを使った成果関係)
- ・UVSORなどで進める陽電子を用いた分析関係 [過去に領域5でシンポジウムが開催された]
- ・東北放射光関係 [76回年次大会で”放射光科学のフロンティア:最新動向と詳細展望”でシンポジウムが行われた]
- ・機械学習関係